

## 平成27年度市政懇談会会議録

開催日時：平成27年5月1日（金） 午後7時～午後8時

開催場所：境総合文化センター 小ホール

参加者：110人

市側出席者：五十嵐市長、吉田副市長、徳江教育長

佐藤総務部長、福田企画部長、池田財政部長、松島市民部長、小池環境部長、  
武井健康推進部長、三澤福祉部長、金子経済部長、鈴木建設部長、  
内川都市計画部長、茂木中心市街地整備部長、毛呂公営事業部長、要田水道局長、  
笠原消防長、吉澤経営企画部長（市民病院）、高橋会計管理者、石原議会事務局長、  
古澤監査委員事務局長、越須賀教育部長

- 1 開 会 司会進行（企画調整課長）
- 2 特別職の紹介・市職員（全部長職）の紹介
- 3 市長あいさつ

皆様、こんばんは。市長の五十嵐でございます。本日は、夜分にもかかわらず、大変お疲れのところ、また、お忙しい中、平成27年度市政懇談会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

皆様には、日頃から、市政全般について、暖かいご指導、ご支援、ご協力をいただきまして、心から感謝申し上げます。

この市政懇談会は、年度当初にあたり、本年度、市がどのような取り組みを進めていくかについて、具体事例を挙げながらご報告させていただき、また、皆様から、ご質問等を伺って、今後の市政運営に反映させていこうという趣旨のもとで開催するものです。

限られた時間ではありますが、スクリーンをご覧くださいながら、平成27年度の重点政策等について、ご説明させていただきます。

#### 4 重点政策の概容

- (1) 平成27年度重点政策について <市長説明>
- (2) 質疑応答 <特別職及び全部長職> (7:40～)

※質問及び回答の要旨を掲載しています。

#### ◆少子高齢化に伴う境島村整備方針について

##### 【質問】

本年度、新しい総合計画を立てられたようですが、伊勢崎市としては、境島村の特に利根川右岸について、将来、どのような地域にしていこうと考えているのか伺います。境島村では、少子高齢化が急速に進んでいます。今、歴史と伝統がある境島小学校の存続そのものが問われるような状況となっています。市では、このような状況となったのは、どのようなことが原因だと捉えていますか。今回、世界遺産として認められた「田島弥平旧宅」を含み、境島小学校も明治6年の開校という古い伝統を持つこの地域が、今日では、人口

が全く増えない、それどころか減少の一途をたどり、特に若い人が定住しない状況となっ  
てしまっています。都市計画法が施行されてから、利根川の右岸まで全てが調整区域であ  
り、さらに、全面的に法の農振農用地の規制がかかり、人が住みつけないような状況のま  
ま今日まで来たことが、大きな要因の一つではないかと私は考えています。

この問題について、伊勢崎市はどのような視点で考えているのかお聞かせいただきたい  
と思います。このことが解決しないと、世界遺産はあるけれどもそこに人が住めなくなっ  
てしまうような地域になってしまうのではないかと非常に危惧しています。

**【回答】（市長）**

このことにつきましては、私の基本的な姿勢として、全市域の均衡的な発展を目指して  
いるということが大原則にあります。ご指摘いただきました人口減少問題、あるいは、調  
整区域の問題等につきましては、1つこの方法をやれば解決するというものではないと考  
えています。いろいろな方法を考えながら、1つ1つ取り組んでいくことが必要であり、  
その中で例えば、下水道整備の関係ですけれども、なかなか公共下水を導入しづらい地域  
なものですから、一昨年からでしょうか、市町村設置型の合併浄化槽事業を入れさせてい  
ただいております。また、特に、雨水排水等の側溝処理については、県にもお願いして、  
整備を進めています。皆様のご要望等を伺いながら、総合的に、どのような方法が良いか  
を考え、できることから進めてきていますが、今後もさらに、皆様とご相談をさせていた  
だきながら、より良い環境になるよう研究してまいりたいと考えています。

**◆祭りの補助金について**

**【質問】**

現在、境地区の祭りに対する補助金は、303万円となっていますが、赤堀地区は  
660万円、東地区は550万円となっています。この金額は、合併時の規模や実績等か  
ら算出されているということですが、合併後10年が経過していますので、そろそろ金額  
を見直して、各地区の平準化をお願いします。同じ伊勢崎市民であるにもかかわらず、不  
平等ではないかと思えます。

上町の祭りは、毎年一般の方から寄附をいただいて運営していますので、境地区の補助  
金が303万円でも祭りは実施できます。ただ、地区によって額が違うという不公平さを  
なくしていただきたいと思えます。いかがでしょうか。

**【回答】（市長）**

ご質問の中にもありましたが、現行のご支援の金額については、合併時点での各市町村  
における実施規模をそのまま踏襲しています。そのような中で、やはり、できるだけ皆様  
にとって不公平感がないようにすることが一番好ましいとは思いますが、なかなか行政か  
ら提案することは厳しいものがあります。そこで、一例として、各地区の体育行事等につ  
いて挙げますと、体育協会が中心となり、新年度からご支援の金額を一律にするという形  
がとれることになりました。このように、お祭りの費用等についても、各地区の皆様をは  
じめ、多くの皆様が納得いただけるような方向性を出していただけるとありがたいと考  
えています。また、市でも検討してまいります。

**◆境地区の高齢化に伴う地域包括支援センターの体制について****【質問】**

萩原町区の高齢化も非常に深刻で、本年3月末の高齢化率が38.9%となっています。今年度、高齢者になられる方を計算し、一人もお亡くなりにならないとすれば、来年の3月末には、41%を越える高齢化率になります。説明にもあった第6期高齢者保健福祉計画からも、境地区は特に高齢化が進んでいると言えます。赤堀地区及び東地区の高齢者4,000人台に対して、境地区では8,000人を超えています。また、介護保険の要支援、要介護認定者は、境地区では1,500人を超える状況になっているようです。このような状況の中で、第6期高齢者保健福祉計画が作られたわけですが、その中心となっているのが、地域包括ケアシステムということです。その軸として、来年、地域包括支援センターを9圏域に分割するという内容がありました。現在、市の地域包括支援センターでは、20数人がその職に就いているようですが、9圏域に分かれると、単純に1カ所3人としても27人必要となり、現在の定数になってしまいます。境地区は、先ほど言いましたように、要介護認定者等が1,500人を超える地区です。限られた人数体制で、本当に対応できるかと言えば、無理ではないかと思えます。計画を見ますと、相談体制の充実等を図り、地域包括ケアシステムを推進するための協議会の事務局として、地域包括支援センターが重要な役割を担うということなので、私どもも、大きな期待を持っています。来年度、実施されるということですが、今年度中にはある程度の方向性、もしくは内容が確定するだろうと思えます。

現時点で、この問題についてどのように検討されているのかという質問が1点、また、もう1つ要望として、特に高齢化が進んでいる境地区について、地域包括支援センターの体制を万全にしていきたいと思えます。民間事業者への委託もあるわけですが、介護保険法で規定する行政組織としての地域包括支援センターと、民間事業者に委託した場合では、やはりその中身がだいぶ違ってくるのではないかと思います。そのような点も含めて万全の体制を整えていただければと思います。

**【回答】（福祉部長）**

2025年には65歳以上の高齢者が3,657万人、人口の30%に達すると予測されている中で、第6期高齢者保健福祉計画を策定させていただきましたが、地域包括ケアシステムの構築が大きな柱となっています。現在1カ所の地域包括支援センターとしてやっていますが、それを来年度からは9カ所に複数設置することになります。圏域については、3,000人から6,000人くらいのいわゆる中学校区が適当という中で、9圏域に分けさせていただいています。境地区に限らせていただくと、高齢者人口が約8,000人ということで、本来であれば2圏域にすべきだったのかもしれませんが、なかなか圏域を分けることが難しいという状況でした。それぞれの圏域に3職種の職員を置くこととなりますが、境地区については、3人ということではなくて、増員しながら対応していきたいと考えています。また、平成28年4月からは圏域を増やし、広げていくわけですが、基本的に今の考えでは、1カ所を直営とし、残り8カ所は委託とする予定です。今秋までには、委託業者を決定していく方向で進めています。

また、民間業者への委託についてのご意見もありましたが、直営である本庁の地域包括支援センターについては、来年度は人員をある程度充実させ、また、委託となる残り8カ

所についても、しっかりと委託先を指導しながら、公平な事務ができるよう進めてまいりたいと考えています。

【質問（続き）】

現在市役所の中にある地域包括支援センターはそのまま残し、さらに、残りの圏域については、民間事業者に委託するという解釈で良いのでしょうか。現在、高齢者等地域支援センター等で契約している事業者も境地域には2カ所ありますが、そのような事業者を対象に委託し、そこに包括支援センターなるものを設置するということであり、それは行政組織ではなくて、あくまでも委託した組織ということでしょうか。第6期高齢者保健福祉計画からそういったことはわかりませんでした、そのように理解して良いのでしょうか。

【回答】（福祉部長）

再度ご質問いただきましたとおり、1カ所は市役所にそのまま残した形で、残りの8カ所については委託を考えています。委託については、制度上、特に問題はありませぬので、高齢者等地域支援センター等が中心になっていくのではないかと考えられます。

◇閉会あいさつ（市長）

皆様には、本日、大変お疲れのところ、また、お忙しい中、市政懇談会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

また、熱心なご質問をいただきましたことに感謝を申し上げます。

今後も、皆様にご意見等伺いなら、元気で、豊かで、安全なまちづくりを目指してまいりますので、ご指導、ご協力賜りますようお願い申し上げます。本日は、大変ありがとうございました。

5 閉 会（企画調整課長）

（8：00）